

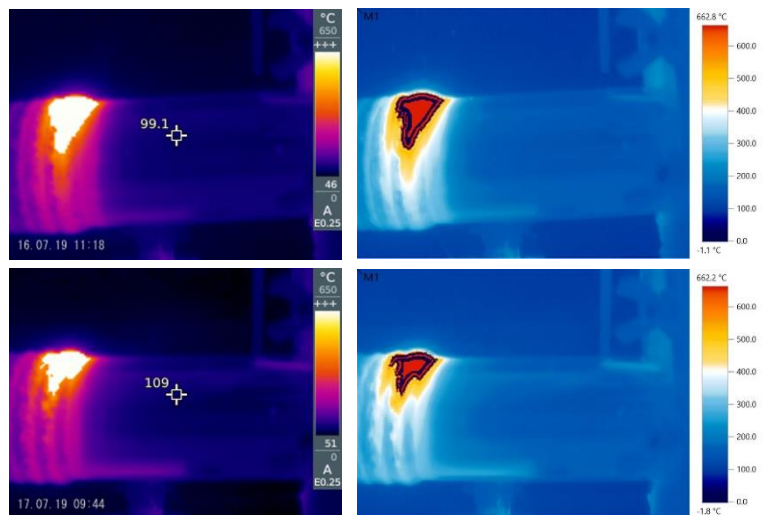


サーモグラフィカメラの施工への採用

硬化肉盛溶接においては、高い耐摩耗性を得るために、2～5%の炭素と15～30%程度のCrを含む高クロム鋳鉄系の溶接材料を一般的に使用します。これらは非常に割れやすいため、一般的に接手溶接には使用されませんが、溶接割れを溶接範囲全体に分散させることで、溶接金属を破断させずに溶着させることができます。この割れをコントロールする上でも、溶接時の温度管理が重要になります。当社ではサーモグラフィーを導入し、溶接中や余熱・後熱時の温度を視覚的に観察・記録し、熱の影響をコントロールしています。



赤外線サーモグラフィカメラ



溶接条件による温度分布の違い

